

スマートホスピタル「このはネット」について

1 導入の経緯

知事の政策集である「あいち重点政策ファイル330プラス1」に掲載された「障害者医療におけるスマートホスピタルの展開」を具体化するため、2019年度から「医療療育総合センターを中心とした障害者医療におけるスマートホスピタルの導入検討・展開」を行っていくことになった。

2 目的

- ・ 重症の障害児者は、障害の種類による個別性が高く、個々の状況において対応が異なる場合が多いため、重症児者が安心して在宅で過ごすには、専門職の観察・指導の下で適切な医療・介護が行われることが極めて重要である。
- ・ 在宅における障害児者の医療・介護は、家族のほか、地域のかかりつけ医（主治医）、訪問看護ステーション（訪問看護・訪問リハビリ）、訪問介護事業者、市町村の児童発達支援センター等、多くの関係者が関わっており、家族とこれら支援を行う者の医療・介護・療育の質を上げることが、障害児者の在宅生活の質の向上につながる。
- ・ このため、愛知県の障害者医療の拠点である医療療育総合センターは、遠隔診療（オンライン診療）を活用しながら、在宅における重症児者の生活状態について観察・指導等を行うとともに、かかりつけ医など地域で支援を行う者と連携し、センターが持つ知識・技術を広く還元することで、これら支援者の質の向上を図り、障害者版の地域包括ケアシステムの構築を目指す。

3 具体的な取り組み

（1）遠隔診療（オンライン診療）

2021年度はモデル事業として、リハビリテーション部門、胃ろう・栄養部門、遺伝診療部門の3部門で実施する。将来的には、センター全体で行う予定である。

（2）電子@連絡帳「このはネット」

地域の「医療・福祉（介護を含む）」に携わる専門職が情報を簡単に共有し、地域の医療連携と地域包括ケアを統合的に実現できる多職種連携プラットフォーム。名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センターとIIJが共同研究でサービス化し提供されている。

高齢者（介護保険）の地域包括ケアシステムとして愛知県内の市町村に導入されている。

- ・ このはネット（ポータル） <https://ptl.iij-renrakucho.jp/konoha/>
- ・ 電子@連絡帳 <https://ecn.iij-renrakucho.jp/konoha/login>

4 広域連携について

高齢者用としてすでに運営している市町村の電子@連絡帳と、障害児者用の電子@連絡帳「このはネット」と連携することにより、高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える障害児者への包括的支援体制ができ、地域包括ケアの普遍化が図られる。

令和3年6月18日から瀬戸市・尾張旭市と連携しており、7月頃に豊川市、秋頃に他の市町村と連携する予定である。